

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392300085		
法人名	株式会社 いわしや窪田		
事業所名	グループホームみずほ 1番館		
所在地	熊本県下益城郡美里町安部235番地1		
自己評価作成日	平成30年10月19日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけご利用者様のご希望に沿った対応ができるように、職員間で情報を共有し、対応していくようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな山里に立つホームに新たなユニットが増設されてから、2ユニット18名の生活が継続されている。高齢化や重度化が進む中、101歳や102歳の方を筆頭に、その生活ぶりは改まったものではなく、普段の何気ない暮らし方そのものである。外出の減少はホーム内での活動充実に切り替え、天気の良い日は相互のユニットをお隣さんとして訪問し、お茶や会話でひと時を過ごしている。本年度は、運営推進会議に新たに地域代表者の同席が意見の拡充に繋がるとともに、地域情報の収集に活かされている。事業体制の変更があった中で、職員はホーム本来の姿に戻すべくそれぞれが出来ることで力を尽くしている。災害対策では今後地域との連携や、防火管理責任者の資格取得の増員も検討したいとしており、安全対策に向けた今後の取り組みにも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示していますが、職員のどれだけが見ているか、考えているかがわかりません。長すぎる為簡潔にしていけば話が出ております。	職員は開所時からの理念をケアの指針として、日々入居者と向き合っているが、見直しの際には様々な意見が出されている。最終的には現行のまま継続することとなったものの、2ユニットへの増床や職員体制の変更等状況変化に伴い、検討課題であるとしている。	理念の見直しについては職員も検討の余地があると考えており、現在の理念をもとに、全職員で新たな理念の作成に取り組まれることを期待したい。また、今後新たな理念については、来訪者などへもわかりやすく掲示することで、地域への啓発に繋がると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なかなかこちらから赴くことが難しい為、ボランティアの方に来て頂く機会を多く持って行きたいと考えております。	高齢化が進む中、入居者が地域へ出る機会は少ないが、一軒家として独立した双方のユニットをお隣さんとして訪問したり、庭に出て菜園仕事に関わっている。以前から地元保育園との交流は続いており、来所する子どもたちの姿は入居者の楽しみである。傾聴ボランティアの2か月ごとの訪問や、地域小学生による戸外授業「わが町たんけん」では、入居者とのひと時を過ごしている。敷地内の施設を認知症啓発活動に提供し、運営推進会議の中で、地域の人々に施設を活用してもらう様発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対して出来ていないと思います。が、敷地内に空いた建物がありますので、ケアの拠点とはいきませんが、そのフロアを利用し、社協等に使って頂いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で挙がった話など、現場に伝え、地域と一緒に出来ないか検討しています。	会議には行政や社協、ホームの運営関係者などが参加しているが、前回より地域代表として区長が新たに参加している。家族へも全員に声かけをしているものの、参加には至っていない様である。行事や事故報告などを通じてホームの現状を伝え、義務付けとなった身体拘束についてホームの取組みを紹介している。地域代表者の参加により、情報の拡大が期待され、避難訓練時の事前報告などの要望があがっている。	現在会議には管理者のみが参加しているが、他の職員も輪番で同席することで会議の意義や地域との関りを直に感じてもらうことも必要と思われ、同時に進行や記録の役割分担に繋がる取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の話や現場の声など、町担当者の方に報告したり、話題にし、協力関係を築けるよう取り組んでおります。	運営推進会議には役所の担当者や社協職員が参加し、入居者の様子を見てもらいながらホームの現状を発信している。行政の立場から様々な情報がもたらされており、管理者は相談事や事故報告などで役所を訪れ、担当者とは直接会話しながら、友好的関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の活動や毎月の職員会議などで、皆で勉強する機会を作っております。	ホーム独自の勉強会や、外部研修での資料をもとに拘束や虐待についての認識を深め、「拘束ゼロ」への取組みを進めている。運営推進会議での情報発信によりホームの透明性を図り、センサーマットの使用目的や家族への報告の必要性について共有し、入浴時のボディチェックにより、入居者の身体の異常を早期に発見している。	各ユニットが独立した造りになっており、特に夜間帯の連携について、互いの安全を確認する体制作りを提案する声があがっており、早急な対策が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や権利について学ぶ機会があれば積極的に参加していき、職員会議でも行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていないと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とはよく話をし、相談も受け一緒に考えたりしています。そういった信頼関係は出来ていると思います。	家族の面会時には入居者の様子を伝えながら、忌憚のない意見をもらうよう投げかけている。食事や利用料などについての相談事に応じながら、家族へ適切な対応を講じている。入居者の意見は普段の関りの中から聞き取り、支援に反映させている。	ホームには意見箱が設置されていない。利用頻度は少ないと思われるが、家族意見の収集手段として設置を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意欲低下も見られていました。出来ておりません。	運営関係者が運営推進会議に参加することで、行政や地域意見に耳を傾け、ホーム運営に反映させている。本年度は事業体制の変更に伴い、職員意見の収集の機会が少なかったと感じている。職員の資格取得への支援は無いものの、実務者研修への援助や、今後防火管理責任者の取得に力を入れたいとのことである。	事業体制の変更に伴う職員異動など環境が変化中、一人ひとりの職員がホーム本来の姿に戻す努力をしている。定期的な会議や勉強会で意識向上を図り、入居者に向き合っており、今後の取り組みが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ていないと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の希望と本人の希望は違うので、聞き取りでわかるものであればご本人様との対話を大事にしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ていると思います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に楽しみながら生活できている時もありますが、自分たちが上から見ているような言動も時折聞かれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来ていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人に関係のある人、地域への外出等は出来ておりません。	101歳や102歳の方を筆頭に高齢化が進んでおり、外部との馴染みの関係性は薄れてきている。家族の協力による受診や外食、お盆の外泊や散髪などが支援されている。馴染みの人や場所への外出が難しい分、ホーム同士の交流を工夫し、互いのリビングでお茶を飲みながら雑談をする時間を持っている。広い敷地は入居者の散歩コースであり、菜園で野菜の育ち具合を確かめるなど、馴染みの生活として普段の楽しみ事に力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ていると思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていると思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ていると思います。	入居者の中には自らしたいことを口にされる方もおられる。年齢的にも目や耳が不自由になられた方もおられ、職員は日々の生活の中にゆっくり話を聞く時間を持ち、本人の思いをプランに繋ぐように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族が来られた際など、話を多く行い本人の生活歴や性格等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ていると思います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1階の職員会議などで利用者一人ひとりに対する意見や対応など確認しております。それを計画書作成につなげています。	職員会議は担当者会議を兼ねており、入居者の担当職員が主となって収集したアセスメントをプランに反映させている。入居者の「自分でできることはするけん見とってください」の嬉しい一言もプランに表記され、日々の体操や活動への参加をはじめ、起床や就寝の時間への認識、夜間のトイレ誘導など見守りの中で入居者自身のできる力を引き出し、継続しながら本人の意向を優先した内容としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに記入し、職員間での情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望など多様なことでも検討し、対応できるのであれば行っていけるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は出来ていると思いますが、利用者に結びついていないと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ていると思います。	入居時に本人・家族の希望するかかりつけ医を確認しており、協力医による往診やホームや家族で医療機関に出向いている。また、必要に応じて介護タクシーの紹介を行っている。職員は毎日のバイタルチェックや表情、動き、食欲などケアの中で異常の早期発見に努めており、状況により早めの受診を行っている。食後の歯磨きや義歯の管理、歯科衛生士によるアドバイスなど、口腔ケアの面からも入居者の健康を支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ていると思います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。体調の急変時は病院への受診をしています。	現在ホームでの看取り支援は実施しておらず、継続的な医療支援の必要がある場合や、急変時は医療機関での対応としている。	看取り支援の有無に関わらず、入居者の最終を支えるホームとして、急変時の対応を含め、必要な研修の機会を持たれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ていないと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や災害時の話は出来ており、地域との協力での訓練の話までは出ているが、先にすすんでいない。	災害訓練は火災想定を中心に、年3回実施している。地域との協力体制は今後の課題としている。現在ユニット間が棟続きになっていない事から、有事の際には安全な方へ避難できるよう、通路を設けてはどうか？という提案が出されている。	昨今の自然災害のもたらす被害は想像を超えるものであり、今後は熊本地震を風化させないためにも、机上を含め自然災害を想定した訓練の実施が期待される。運営推進会議の中に避難訓練を含める事や防火管理責任者の資格取得者の増員も有効かと思われる。また、備蓄についてはリストを作成し、職員間での共有を図っていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが注意している。また言葉使いなど気付いた際にはその場で注意をし合っています。	呼称は苗字や下の名などでその方の反応を見て対応している。言葉使いについては、気になることがあれば、管理者や職員同士でも注意し合うようにしている。同性介助への希望については、入浴支援では要望はないが、排泄支援では同性を望まれる方もあり、臨機応変に対応している。	呼称や言葉使いなど今一度、周知徹底の機会をもうことが必要と思われる。今後も入居者の尊重を含め、ホームの姿勢を全員で検討されることを期待したい。職員自身が大切な環境として、今後も入居者支援に努めていかれる事を望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらで何もかも行ってしまうことが多くあるように感じます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせているが、本人の希望に沿っているのが疑問です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けし着替えなどを用意することもあるが、こちらで本人に声掛けもなく用意してしまっていることが多く会っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ていません。	ユニットごとに献立作成や食材購入、調理を行っている。食材は地域の物産館やスーパーを利用しているが、ホームの畑で収穫した野菜も活用している。秋には庭先で焼き芋を楽しみ好評だったようである。誕生日には本人の希望食を準備しており、肉料理やちらし寿司をよく好まれるようである。食形態は嚥下力に応じて準備している。	焼き芋会など戸外での活動は入居者も喜ばれており、今後もホームに出来る食の楽しみを検討し、支援されることを期待したい。また、エプロンの使用方法や状況ではタオルでもよいのではないかなど、安易にエプロンに頼らない支援についても検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては本人に合わせた量や形態に注意しています。また水分量のチェックも行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ていると思います。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の能力に合わせて、病院ではオムツでもホームでは日中は職員2名でのトイレ誘導行うなどの対応が出来ていると思います。	日中はトイレでの排泄を基本とし、排泄用品や自立の継続、介助や見守りなど個々に応じて検討し支援している。夜間のみテープ式おむつやポータブルトイレを使用する方もおられる。ポータブルトイレはその都度洗浄し、夏場は本体ごと洗浄するなど清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケースによって、胃腸科などの受診を促し、原因を確定した上で対応を職員会議などで検討しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調を考慮して、入浴を勧めております。	入浴は午後を中心に週2～3回、身体状況からシャワー浴が殆どの方もおられ、冬場はかけ湯をしながらゆっくり温まってもらっている。入居者の中には支援中に、色々な話をされる方もあり、情報収集やコミュニケーションを図る機会ともなっている。入浴支援の前に、丁寧に着替えを準備する職員の姿が見られた。菖蒲や柚子湯の季節湯も継続している。	今後も清潔保持に加えその方にあった入浴の楽しみを把握し、支援していかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方が居られますが、そういった方は特に日中の活動などを考えて、対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前を言いながら、予約行っております。拒否があり飲まれないときも成分を確認し、提供を促す、または薬によっては無理をしない対応をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は体操や習字、レクなどを行って楽しみが持てるように行っていますが、個々で対応が出来ていませんので、本当にその人がしたいことは出来ていないと思います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などの外出はしています。訪問看護を利用して、看護婦と一緒に花の見学などは行いました。しかし何ヶ月かに1回と回数が出ていません。	山の懐に建つホームは敷地内も広く、庭先の花や野菜の育ち具合を見る等、身近な散歩ができる環境である。数人で藤の花見学をするなど、身体状況に応じユニットごとに外出を支援しているが、頻度的には多くはないと語っている。家族の協力としては、外食や美容室利用などに出かけられている。	敷地内から望む山々や野菜畑を眺めるなどホームは身近な自然を楽しむ環境にある。また、春には枝垂れ桜の開花が心待ちされる。今後も家族の協力を得ながら、入居者が戸外に出る機会を支援いただきたい。また、運営推進会議などから地域の情報を得る事も、外出の機会や幅を広げる事に繋がると思われる。今後の取組が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を持っている方も居られますが、その方たちはご家族を中心に管理していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話などは、利用者様が希望された際すぐに行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地がよいように工夫している過程です。その都度職員と話し合い、こうすれば、これをおいたら、等の話はしていません。	リビングホールの壁面には、入居者と一緒に作った作品の掲示など季節感のある環境に努めている。入居者の殆どが日中はホールで過ごしており、特に午後の時間は録画した歌番組を流しており、一緒にロズさんたり、ソファでうたた寝など寛いだ時間を過ごされている。開設の異なるユニットのため、ホーム内の造りも違っているが、双方の職員は物品の配置などもユニットの特性などを活かしながら進めている。	リビングの窓は採光や外を眺める事で、季節の移ろいを感じる等開放感をもたらしてくれるものである。今後は努めてレースのカーテンを開け、入居者に更にゆったりとした時間を提供されることを望みたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと過ごせるような空間を作れるように、話し合いながら努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は必ずご自宅で使われていた布団やたんすなどの使用を勧めています。利用者様の安心感にも繋がると考えております。	入居時に馴染みの品(湯呑・タンズ・部屋で使用していた物など)の持ち込みや、新たに購入の必要がないことを申し添えている。また、趣味の紐手芸も継続して準備されている。入居後も時々で本人・家族と相談しながら居心地の良い居室環境に努めており、現在テレビを置きたいとの本人の要望を受け、検討中である。衣替えや掃除は職員が中心に行っているが、家族の協力も得ており、入居者の中には自室を掃除される方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ていないと思います		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392300085		
法人名	株式会社 いわしや窪田		
事業所名	グループホームみずほ 2番館		
所在地	熊本県下益城郡美里町安部235番地1		
自己評価作成日	平成30年10月19日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけご利用者様のご希望に沿った対応ができるように、職員間で情報を共有し、対応していくようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示していますが、職員のどれだけが見ているか、考えているかがわかりません。長すぎる為簡潔にしてい話が出ております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なかなかこちらから赴くことが難しい為、ボランティアの方に来て頂く機会を多く持って行きたいと考えております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対して出来ていないと思えます。が、敷地内に空いた建物がありますので、ケアの拠点とはいきませんが、そのフロアを利用し、社協等に使って頂いたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で挙げた話など、現場に伝え、地域と一緒に出来ないか検討しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の話や現場の声など、町担当者の方に報告したり、話題にし、協力関係を築けるように取り組んでおります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の活動や毎月の職員会議などで、皆で勉強する機会を作っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待や権利について学ぶ機会があれば積極的に参加していき、職員会議でも行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていないと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とはよく話し、相談も受け一緒に考えたりしています。そういった信頼関係は出来ていると思います。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意欲低下も見られていました。出来ておりません。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ていないと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の希望と本人の希望は違うので、聞き取りでわかるものであればご本人様との対話を大事にしております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ていると思います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に楽しみながら生活できている時もありますが、自分たちが上から見ているような言動も時折聞かれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来ていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人に関係のある人、地域への外出等は出来ておりません。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていると思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ていると思います。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族が来られた際など、話を多く行い本人の生活歴や性格等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ていると思います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1階の職員会議などで利用者一人ひとりに対しての意見や対応など確認しております。それを計画書作成につなげています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに記入し、職員間での情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望など多様なことでも検討し、対応できるのであれば行っていけるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は出来ていると思いますが、利用者に結びついていないと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ていると思います。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ていると思います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。体調の急変時は病院への受診をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ていないと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や災害時の話は出来ており、地域との協力での訓練の話までは出ているが、先にすすんでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが注意している。また言葉使いなど気付いた際にはその場で注意を合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらで何もかも行ってしまうことが多いと感じます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせているが、本人の希望に沿っているのかが疑問です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けし着替えなどを用意することもあるが、こちらで本人に声掛けもなく用意してしまっていることが多く会っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ていません。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては本人に合わせた量や形態に注意しています。また水分量のチェックも行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の能力に合わせて、病院ではオムツでもホームでは日中は職員2名でのトイレ誘導行うなどの対応が出来ていると思います。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケースによって、胃腸科などの受診を促し、原因を確定した上で対応を職員会議などで検討しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調を考慮して、入浴を勧めております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方が居られますが、そういった方は特に日中の活動などを考えて、対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前を言いながら、予約行っております。拒否があり飲まれないときも成分を確認し、提供を促す、または薬によっては無理をしない対応をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は体操や習字、レクなどを行って楽しみが持てるように行っていますが、個々で対応が出来ていませんので、本当にその人がしたいことは出来ていないと思います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などの外出はしています。訪問看護を利用して、看護婦と一緒に花の見学などは行いました。しかし何ヶ月かに1回と回数が出ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を持っている方も居られますが、その方たちはご家族を中心に管理していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話などは、利用者様が希望された際すぐに行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地がよいように工夫している過程です。その都度職員と話し合い、こうすれば、これをおいたら、等の話はしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと過ごせるような空間を作れるように、話し合いながら勧めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は必ずご自宅で使われていた布団やたんすなどの使用を勧めています。利用者様の安心感にも繋がると考えております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ていないと思います		